

# 地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) —行政との連携進捗状況—



## 芳賀地域の現状について

真岡中央クリニック (芳賀郡市医師会) 小川 松夫

### はじめに

地域包括ケアシステムは、各市町が、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。芳賀地域では比較的人口密度が高く、医療・介護の事業所が揃っている真岡市と人口密度が低く医療・介護の事業所が少ない4町（益子町、茂木町、市貝町、芳賀町）では地域の特性が違います。そこで芳賀郡市医師会では在宅医療連携拠点整備促進事業を受託する際に事業を真岡市と4町の2つに分けて受託することに致しました。2つの事業を行うことにより芳賀地域の地域包括ケアシステムを一律に整備するのではなく各地域に適した地域包括ケアシステムの構築を可能に致しました。在宅医療連携拠点整備促進事業を真岡市と協力して平成27年度から平成28年度に行い。平成28年度から平成29年度に4町と協力して行っております。在宅医療連携拠点整備促進事業が終了した真岡市では真岡市在宅医療・介護連携推進事業が平成29年度から始まりました。

### 真岡市との連携

昨年度までの在宅医療連携拠点整備促進事業における各事業項目に関する実績の詳細は報告書にありますのでご興味のある方は御一読ください。沢山の実績がありますがその一部を紹介すると。地域医療・福祉資源マップは市民向けと事業所向けの二部構成を検討。市民向けは印刷・配布できるように素案を作成。事業所向けはCD-Rに焼き付け作業を経て各事業所に配布される予定。多職種連携会議で抽出した4課題「(1)円滑な在宅医療への移行(2)在宅・施設利用時の病状変化、急変時の対応(3)在宅での服薬管理(4)在宅医療普及のための住民啓発活動」について更に検討。病院及び有床診療所の担当者により入退院にかかる連携手引書を作成。介護関連施設等救急搬送時の情報提供書及び一般住民救急キットの救急書式を作成。看護協会とケアマネ協会が作成した「入退院共通連携シート」の利用促進を検討。介護保険での主治医意見書作成を容易にし、審査までの時間短縮を目的に主治医意見書の予診票の統一化を行った。

平成29年度から真岡市在宅医療・介護連携推進事業が開始されました。事業の内容は在宅医療連携

拠点整備促進事業と重なる内容です。事業の取組については「在宅医療・介護連携推進運営委員会」を設置し、事業課題や計画などを協議します。また、具体的な事業は「専門部会」を設置し検討します。更に、本事業を円滑に進めるため、各団体および関係機関等による「真岡市在宅医療・介護連携ネットワーク連絡会 (いちご一会)」を設置します。平成29年度重点活動目標は①円滑な在宅医療への移行②在宅医療普及のための住民啓発活動です。真岡市の事業の一部を芳賀郡市医師会は受託することに致しました。具体的内容は「在宅医療・介護連携推進事業運営委員会」「専門部会」「在宅医療・介護ネットワーク連絡会 (いちご一会)」の設置。在宅医療・介護相談員の配置。在宅医療・介護連携相談窓口の開設。全体研修及び提案募集型研修会の開催です。在宅医療・介護相談員は決定し、相談窓口も準備が整い次第開設予定です。

### 4町との連携

平成28年度は在宅医療連携拠点整備促進事業にて在宅医療・介護連携の課題と抽出を2回の多職種連携会議で話し合い、更に5回の研修会と勉強会で多職種との顔の見える関係づくりが出来ました。平成29年度は既に4月に医師による看取りルール勉強会。5月には市貝町にある花王の協力によるオムツの勉強会が開催されました。6月にははりハビリ職による移乗や移動等の実習。7月には飯島勝矢先生によるフレイルについての市民公開講座。8月には川越正平先生による多職種研修会。その後には口腔ケア、栄養指導、在宅医療、服薬指導等の講演会を計画しています。広い地域のために開催地もバランスよく計画しています。

### 今後の連携について

平成30年度から全市町で在宅医療・介護連携推進事業が開始されます。在宅医療・介護連携推進事業では事業項目に在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携があります。今後は真岡市と4町の連携を進めていただきたいと思います。芳賀郡市医師会は各市町と協力しながら芳賀地域の地域包括ケアシステムの構築に協力して行きます。